

文部科学省「次世代のライフプランニング教育推進事業」

(ライフプランニング教育プログラム開発) 委託事業

「人生を切り拓くライフプランニング教育」
報告書

令和2年3月
聖心女子大学

目次

1. 事業の目的	1
2. 実施体制	1
3. 実施内容について	2
4. プログラム案の実施と検証について	5
5. 成果物について	16
6. 動画作成について	17
7. グラフィックレコードについて	18

付録

1. 事業の目的

「女性活躍加速のための重点方針 2018」では「あらゆる分野における女性の参画拡大・人材育成」が挙げられ「学校段階からのキャリア形成にかかる学びの充実」が指摘されている。大学教育のなかで、大学生が男女共同参画の視点を養い、自らの将来の職業や様々なライフイベント、社会において果たす役割等を含めたライフプランニングについて考える機会を充実させることが重要である。また、大学生が自らの「無意識の偏見」に気づくことも必要である。

このような状況をふまえ、本事業では、授業や課外講座のなかで、男女共同参画の視点に立ったライフプランニングの基礎を学び、働いている人へのインタビューの実施、事例分析やロールモデルとのディスカッション、グループワークなどを通して、学生が主体的に学び、人生を切り拓く力を身につけることを目的とする。

人生を切り拓く力とは、自分の行きたい方向に自分をもっていける力である。前提を問い、自分の行きたい方向に行くにはなにが障害なのかを見極め、障害をどう乗り越えるかを考え、必要な支援、得られる資源を把握し、支援や資源を活用しつつ、自分の人生を主体的に自分の希望の方向にもっていく力である。

2019年のジェンダーギャップ指数において日本は121位であることを鑑み、女子大学において女子を対象としたプログラム開発を行い（初年次用プログラム等は本学の一貫教育委員会の高等学校教員の助言もふまえる）、共学の大学で男女の学生に対して検証し、女子学生用（女子大学の女子用と共学校の女子用）と男女学生用のライフプランニング教育のプログラム開発を行う。①課内の授業と授業、②授業と課外の講座、③課外の講座と講座、を有機的に結び付け、学生が、①自分を知り、②社会の構造を知り、③人生をどう生きるかを深く考え、④自分の行きたい方向に自分を主体的にもっていく力—人生を切り拓く力—を養う。

2. 実施体制

本事業は以下の実施体制で行った。

(1) 実行委員会委員

氏名	所属・役職等	備考欄
植田 誠治	聖心女子大学 副学長(学務・大学院担当)	
大槻 奈巳	聖心女子大学 キャリアセンター長/人間関係学科教授	男女共同参画
棚瀬 佐知子	小林聖心女子学院 校長	聖心女子学院一貫教育委員会代表
笹原 恵	静岡大学 ダイバシティ推進担当副学長	男女共同参画
矢口 徹也	早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授	男女共同参画
福井 庸子	大東文化大学 経営学部 専任講師	男女共同参画
仁木 俊二	(独)国立女性教育会館事業課 課長	男女共同参画
黒澤 あずさ	(公益)日本女性学習財団 学習事業課 課長	男女共同参画
三輪 英子	(株)キャリアクリエーション 代表取締役	元資生堂人事採用担当課長
新井 浩子*	早稲田大学 ジェンダー研究所招聘研究員	男女共同参画
跡部 千慧*	静岡大学 学術院融合・グローバル領域助教	男女共同参画
酒井 計史*	(独)労働政策研修研究機構 アシスタントフェロー	男女共同参画

*兼 聖心女子大学非常勤講師

(2) コーディネーター

氏名	所属・役職等	備考欄
新井 浩子	早稲田大学 ジェンダー研究所招聘研究員	男女共同参画

3. 実施内容について

(1) 成果について

聖心女子大学において女子を対象としたプログラム開発を行い、次に、静岡大学で男女の学生に対して検証し、ライフプランニング教育のプログラム開発を行った。

「女性活躍加速のための重点方針 2018」がめざす「あらゆる分野における女性の活躍」「男性の暮らし方、意識の変化」を担う女子学生、男子学生を育成するプログラムを開発した。

具体的には、職業社会学 1（授業）、ライフプランニング講座 A（課外講座）、ライフプランニング講座 B（課外講座）のプログラム開発を行った。

- ・職業社会学 1（授業）：聖心女子大学で実施
- ・ライフプランニング講座 A（課外講座）：聖心女子大学で実施、静岡大学で実施・検証を実施
- ・ライフプランニング講座 B（課外講座）：聖心女子大学で実施、静岡大学で実施・検証を実施

なお、本事業の枠組みやプログラム案を検討するにあたり、実行委員会の開催及び、事前打ち合わせ、事後の振り返りを行った。また、本事業の実施期間は委託開始日の令和元年 11 月 27 日～令和 2 年 3 月 13 日であった。

(2) 成果の指標について

プログラム案は、以下の 3 つの方法で、目標の達成度を分析、評価した。

- ①事前アンケート：学習以前の将来展望、就業意識、職業選択・決定の有無、将来に対する不安等、受講前の実態を把握した。
- ②ふり返しシート：授業を通しての気づき、発見や疑問等を自由に書いてもらい、受講生の認識の転換を把握した。
- ③事後アンケート：学習による変化の自己評価を行い、把握した。

【実施事業一覧表】

授業・講座名	概要	会場	講師（所属）	実施日	ファシリテーター	キャリアモデル	参加者数
「職業社会学1」（授業科目）90分×3回+インタビュー調査1名	キャリアモデルの話、働いている人へのインタビュー、グループワークでの比較分析を通し、働くことの意味、人生を切り拓く力を学ぶ。	聖心女子大学	大槻（聖心女子大学教授）	2019/12/10、17、2020年1/7、インタビューの実施	-	12/10 1名 12/17 2名	103名（履修者数）
「ライフプランニング講座A」（2時間半×1回）	ロールモデルの話とグループディスカッションから、自身の将来展望を具体化し人生を切り拓く力を学ぶ。	聖心女子大学	新井（早稲田大学ジェンダー研究所招聘研究員）	2020/1/27	日本女性学習財団	3名	24名
「ライフプランニング講座B」（45分×4回）	働くうえで必要な能力と社会構造を知り、無意識の偏見のないライフキャリアを考え、主体的な大学生活につなげる。	聖心女子大学	三輪（(株)キャリアクリエイション 代表取締役）	2019/12/18 2020/1/8、10、17	-		1回目94名 2回目97名 3回目88名 4回目91名
「ライフプランニング講座A」（2時間半×1回）	ロールモデルの話とグループディスカッションから、自身の将来展望を具体化し、人生を切り拓く力を学ぶ。	静岡大学	新井（早稲田大学ジェンダー研究所招聘研究員）	2020/2/7	日本女性学習財団	3名	13名
「ライフプランニング講座B」（1時間半×2回）	働くうえで必要な能力と社会構造を知り、無意識の偏見のないライフキャリアを考え、主体的な大学生活につなげる。	静岡大学	三輪（(株)キャリアクリエイション 代表取締役）	2020/2/27、28	-		1回目22名 2回目17名

※本事業の実施期間は委託開始日の令和元年11月27日～令和2年3月13日

[実施スケジュール一覧表]

実施日	曜日	内容	場所	時間	講師/実行委員会	運営スタッフ	キャリアモデル
11月28日	木	ライフプランニング講座Bの打ち合わせ	337教室	13:30~15:00	三輪/新井	聖心:黒木、高機	
12月4日	水	ライフプランニング講座Aの打ち合わせ	大槻研究室	10:00~12:00	新井/跡部、黒澤、大槻	聖心:黒木	
12月10日	火	職業社会学	342教室	13:30~15:00	大槻		1名
12月17日	火	職業社会学	342教室	13:30~15:00	大槻、福井(視察)		2名
12月18日	水	ライフプランニング講座B 1/4回目	312教室	12:30~13:15	三輪/新井、黒澤、大槻	黒木(グラレコ)、赤池(コーディネータ補佐)、聖心:黒木・高機	
12月25日	水	第1回実行委員会開催	グリーンパーラー	13:00~15:00	跡部、新井、大槻、黒澤、酒井、笹原、仁木、福井、三輪	赤池(コーディネータ補佐)、聖心:黒木	
12月25日	水	ライフプランニング講座Aの打ち合わせ(静岡) 打ち合わせ	グリーンパーラー	15:00~16:30	跡部、新井、大槻、黒澤、笹原、三輪	赤池(コーディネータ補佐)	
1月7日	火	職業社会学	342教室	13:30~15:00	大槻		
1月8日	水	ライフプランニング講座B 2/4回目	312教室	12:30~13:15	三輪/黒澤、大槻	黒木(グラレコ)、赤池、聖心:黒木・高機	
1月10日	金	ライフプランニング講座B 3/4回目	312教室	12:30~13:15	三輪/黒澤、大槻	黒木(グラレコ)、赤池、聖心:黒木・高機	
1月17日	金	ライフプランニング講座B 4/4回目	312教室	12:30~13:15	三輪/黒澤、大槻	黒木(グラレコ)、赤池、聖心:黒木・高機	
1月27日	月	ライフプランニング講座A	221教室	13:30~16:00	新井/黒澤、大槻	池田・田村(ファシリテーター、日本女性学習財団)、中尾(グラレコ)、赤池、聖心:黒木	3名
2月7日	金	ライフプランニング講座A(静岡大学)	静岡大学 静岡キャンパス	14:30~17:00	新井/黒澤、大槻、笹原	池田・田村(ファシリテーター、日本女性学習財団)、黒木(グラレコ)、静大:寺村・杉山・佐藤・高井、聖心:黒木	3名
2月27日	木	ライフプランニング講座B 1/2回目(静岡大学)	静岡大学 浜松キャンパス	13:30~15:00	三輪/笹原、大槻、黒澤、跡部	黒木(グラレコ)、静大:本間・田中・森本、聖心:黒木・高機	
2月28日	金	ライフプランニング講座B 1/2回目(静岡大学)	静岡大学 浜松キャンパス	13:30~15:00	三輪/大槻、跡部	黒木(グラレコ)、静大:本間・田中・森本、聖心:黒木・高機	

※本事業の実施期間は委託開始日の令和元年11月27日~令和2年3月13日

※各講座当日も、講座終了前後に1時間程度の事前打ち合わせおよび振り返りを実施

4. プログラム案の実施と検証について

◇職業社会学1（授業）

講師：大槻奈巳（聖心女子大学）

（1）講義目的

働くことや職業的キャリア形成のイメージがつかみにくい大学生を対象に、将来の仕事や働き方について、①キャリアモデルからの話、②社会人へのインタビュー、③働き方や生き方の比較分析、を通して考える。働くことを切り口に自分がどんな人生を歩んでいくか、自分の行きたい方向に自分を主体的にもっていき力～切り拓く力を考える機会とする。

（2）プログラムのポイント（想定される効果）

- ・キャリアモデルの話から、働くことの具体的なイメージを得る。
- ・同じ企業で働き続ける良い点や働き続けられる工夫について考える機会とする。
- ・管理職女性の話から組織のなかでキャリアを形成する大切さ、管理職になってよかったことについて学ぶ。
- ・社会人へのインタビューの実施、他のインタビュー対象者との比較分析を通し、様々な働き方や生き方があること、それぞれの人々の工夫や乗り越える力について学ぶ。
- ・働くことを切り口に、自分の今後の生き方について考える機会とする。
- ・講義を通じて、キャリアモデルの話や社会人へのインタビューの実施を通し、仕事や働くことへの理解を深め、自らつくっている壁について考え、今後の主体的行動を促進する。

*聖心生は、働き続けるイメージを持ちにくい、管理職志向が弱い、自分の母親のライフコースを標準と捉えるというような傾向があるが、キャリアモデルの話から学生たちが自分の視野の狭さや思い込みに気づくきっかけにする。

*この授業をとおして、学生には人生を切り拓く力を考えてほしい。人生を切り拓く力とは、自分の行きたい方向に自分をもっていける力である。前提を問い、自分の行きたい方向に行くにはなにが障害なのかを見極め、障害をどう乗り越えるかを考え、必要な支援、得られる資源を把握し、支援や資源を活用しつつ、自分の人生を主体的に自分の希望の方向にもっていき力である。学生が、人生をどう生きるかを深く考え、自分の行きたい方向に自分を主体的にもっていき力を考える機会にする。

この点が学生にわかるようにキャリアモデルに話をしてもらい、また質問をする。

（3）プログラム案

職業社会学1（各回90分×3回）

回数、テーマ	内容
1) 働くことを考える～ 継続していく重要性 (2019年12月10日実施)	勤続11年目になる金融機関勤務の室長代理の女性（卒業生）をキャリアモデルとしてむかえ、自らの職業的キャリア形成や仕事と生活のバランスについて考える。特に、仕事を継続していく重要性について考える機会とする。適宜、女性の働き方の現状についての解説をいれ、自分のキャリア形成について具体的に考えられるようにする。

2) キャリアの階段を考える～管理職の仕事 (2019年12月17日実施)	同じ会社に勤務する管理職女性と勤続4年目の女性(卒業生)をキャリアモデルとしてむかえ(メーカー勤務)、管理職女性の話からは、企業の中でキャリアを形成すること、管理職になるということ、仕事と子育ての両立について、勤続4年目の女性の話からは、大学で学んだことと現在の仕事、入社して大変だったことなどを考える機会をする。ジェンダーギャップが大きいことや管理職志向が低いことの解説を適宜入れ、キャリアモデルとともに考える。
3) 働いている人へのインタビューの実施 (学生が次回までに各自実施：冬休みに実施する)	30歳以上の働いている社会人に対して、インタビューを実施し、主に職業的キャリア形成についてきき、(具体的には、日本的雇用システムの実際、仕事内容、仕事のやりがい、困難を乗り越え方、WLB、今後のキャリアのあり方など)、社会の変化や企業での働き方の変化のなかで、どのようにキャリア形成してきたのかその特徴を分析する。
4) 働くことの比較分析 (2020年1月7日実施)	グループに分かれ、他の受講生のインタビュー対象者と自分のインタビュー対象者のキャリア形成について比較分析する。さらに、キャリアモデル3名のキャリアのあり方とも比較分析を行う。働くことを切り口にして、自分がどんな人生を歩むかを考える機会とする。

(4) 各回の内容について

1) 第一回「働くことを考える～継続していく重要性」

キャリアモデル：入行11年目、室長代理の女性(金融機関勤務)

①全体のながれ

- ・キャリアモデルに最初15分～20分程度お話しいただく。
- ・そのあと、キャリアモデル、講師で話を深める(講師が質問する形で)。
- ・適宜、日本における女性の働く現状について、パワーポイントのスライドを示しながら講師が解説する。

②キャリアモデルにお話しいただきたい内容

- ・仕事の内容、なぜその仕事に就いたか
- ・その仕事の面白いところ、大変なところ
- ・入行以来、印象に残っている、大変なことはあるか
- ・もしあった場合、その大変だったことをどう乗り越えたか
- ・仕事を辞めたいと思ったことはあるか、もしあるとしたらどう乗り越えたか
- ・大学ではどんな学生だったか、どんなことをしていたか、なにか力を入れて行っていたことはあるか
- ・聖心で学んだことがいまどのようにいきているか(仕事上であったり、自分の人生においてであったり)
- ・価値観で大切にしているのはどんなことか

③質問について

キャリアモデルに質問させていただく予定の内容。

- ・女子大学で学んでよかったことはなにか
- ・働き続けている理由
- ・室長代理になってよかったこと、大変なことについて
- ・もっと上の管理職をめざしたいか

2) 第二回「キャリアの階段を考える～管理職の仕事」

キャリアモデル：課長職の女性、入社4年目の女性（同じメーカー勤務）

① 全体の流れ

- ・管理職女性に最初15分～20分程度お話しいただく。
- ・入社4年目の女性、講師が管理職女性に質問する形で話を深める。
- ・入社4年目の女性に15分程度お話しいただく。
- ・講師が入社4年目の女性に質問する形で話を深める。
- ・管理職女性、入社4年目の女性、講師で自由な形で話を深める。適宜、女性の働く現状について、パワーポイントのスライドを示しながら講師が解説する。

②お二人に共通でお話していただきたい内容

- ・仕事の内容、なぜその仕事に就いたか
- ・その仕事の面白いところ、大変なところ
- ・入社以来、印象に残っている、大変なことはあるか
- ・もしあった場合、その大変だったことをどう乗り越えたか
- ・仕事を辞めたいと思ったことはあるか、もしあるとしたらどう乗り越えたか
- ・大学ではどんな学生だったか、どんなことをしていたか、なにか力を入れて行っていたことはあるか
- ・大学で学んだことがいまどのようにいきているか（仕事上であったり、自分の人生においてであったり）
- ・価値観で大切にしているのはどんなことか

③質問について

以下、追加質問。

○管理職女性へ

- ・なじんでいる地域（関東地方）を離れるのは大変ではなかったか（学生の多くは知らない場所に住むことに抵抗があるので）
- ・子育てと仕事の両立について
- ・管理職になってよかったこと、大変だったこと

○入社4年目の女性へ

- ・女子大学で学んでよかったことはなにか
- ・聖心生のこの力を伸ばしたほうがいいのかという点はなにか

3) 第三回 働いている人へのインタビューの実施（学生が次回までに各自実施一冬休みに実施する）

30歳以上の働いている方にインタビューを行う。男女どちらでも可。

①質問内容

- ・仕事の内容
- ・雇用形態について（日本的雇用システムとの関連について）
- ・なぜその仕事に就いたのか
- ・その仕事につくまでの経歴
- ・その仕事の好きなところ、やりがい
- ・その仕事の大変なところ
- ・その仕事の特徴
- ・仕事における転機、困難の乗り越え方

- ・その仕事を行う人へのアドバイス
- ・今後のキャリアのあり方について
- *インタビューメモを次回の授業に持参する

4) 第四回 仕事やキャリア形成の比較分析

3~4名のグループにわかれ、インタビューしてきた内容を共有する。インタビュー対象者の仕事内容やキャリア形成を比較する。

- ・雇用形態（正規非正規）自営か雇用者か、転職の有無、家族の状況、性別、仕事の内容（営業職、事務職、専門職、管理職の特徴、人を対象にする仕事かそうでないかなど）などを切り口に比較する。
- ・障害があった場合どのように乗り越えたのかを比較する。
- ・（組織のなかや自分自身で）どのようにキャリアを形成したのかを比較する。
- ・インタビューの共有、比較をもとに、キャリアモデルとの比較を行う。

*課題について

上記をまとめたものをレポート課題として提出する。

課題；「仕事について考える」A4 4枚以上40字×36行—手書き不可
定期試験の時に答案と一緒に提出。

(5) 実施について

日時：2019年12月10日、17日、2020年1月7日、各回90分（13時30分～15時）

および冬休みに実施の働いている人へのインタビュー

履修者数：103名

1) 学生の感想

「卒業生の話だったので身近に感じることができた」「管理職になっても大変なだけでないことがわかった」「父親に仕事の話始めてちゃんととき良い機会となった」「インタビューの内容を比較するのは難しかった」「グループでの話し合いは楽しかった。いろいろな人のことがわかった」

2) 実施について

・第一回「働くことを考える～継続していく重要性」、第二回「キャリアの階段を考える～管理職の仕事」をテーマとして、キャリアモデルの3名に話をしてもらい、講師が質問をして話を深めた。本学の学生の多くが持っている「働いていけるか」「仕事は大変なのか」「WLBはどうなるのか」「仕事と子育てとの両立は」「管理職になるのは大変そう」という不安や疑問に対して、学生たちが考える機会となった。学生たちの感想は概ね積極的なものであった。

・第一回、第二回のキャリアモデルの話聞いた後に、学生は働いている方にインタビューを行ったが、キャリアモデルの話や質疑応答がインタビューの参考になり、より聞き出すことができたようである。

・学生たちは、冬休みのインタビューを概ねしっかり実施し、年明けの授業にインタビューメモを持参してきた。父親や母親、おじ・おば等にインタビューした者が4割ぐらい、父親や母親の知り合い、アルバイト先の知り合い、その他自分の興味のある方など、自分で探し、依頼してインタビューを行っていた。

・例年、インタビューに行く冬休みの前に、授業の中でインタビュー調査の注意点やポイント、倫理について講義し、インタビューの練習をしていたが、キャリアモデルの2回があり、今年度はやや時間が空くことになった。また、人間関係学科の学生は2年次必修の「社会調査入門」でインタビュー調査について学んでいるが、他学科の学生には調査について学んでいない学生がほとんどと考えられる。特に問題はなかったようであるが、他学科の学生に補習プリント等の配布も検討したい。

・第四回の比較分析の際は、教員が各グループをまわり、分析の切り口を助言した。各グループ2～4回程度は助言を行った。グループによって分析の切り口が異なるので、助言を行う事が極めて重要である。

・レポート課題として、インタビュー内容に比較分析を加えたものの提出を課している。学生が提出したレポートの内容をみると、キャリアモデルの話、インタビュー対象者の話、比較分析を通して、学生は多くを学んでいた。働くことについて、断片的ではあるが、具体的なイメージを持ち、肯定的に考えるようになっていた。

・キャリアモデルの話の際に、講師がPPTを用いて働く現状について簡単な講義をいれたが、キャリアモデルの話との連携をもっと深めたい。

(4) 開発するもの

a)大学生が社会人の話をきき、社会人にインタビューし、生き方を分析するキャリア教育プログラム。

b)指導者向け資料：プログラム案、対象者別の展開例、キャリアモデルへの質問案、事前事後アンケート。

c)教材：キャリアモデル質問項目作成用ワークシート、インタビュー調査結果報告用ワークシート、授業のふり返しシート。

(5) 展開例

・2019年度の実績をふまえ、2020年度に学校・対象別展開例として、女子大の女子、共学男女、共学的女子学生支援用の3タイプを開発する予定である。

・授業4回で実施したが、授業3回の展開例も検討中である。



キャリアモデルの方



キャリアモデルの方たち

◇課外講座：ライフプランニング講座 A

講師：新井浩子（早稲田大学ジェンダー研究所招聘研究員）

(1) 講座目的

キャリアデザインに関心を持ち始めた2～3年生を対象に、社会人の体験談を聞き、人生を長期的に見据え自立した働き方や生き方の方向性をつかむ機会をワークショップ形式で提供する。

本格的な職業選択や就活の前に、自立した大人として生きるイメージをつかむことをめざす。3名のキャリアモデルの生き方から、人生を切り拓く力としての社会や人と関わる力の大切さに気づき、自身の将来展望を具体化する。

(2) プログラムのポイント（想定される効果）

・事前学習、社会人ゲストのキャリアトーク、学生同士のグループワーク、講師によるレクチャーを組み合わせた双方向型形式で実施する。

・通常授業から離れたカジュアルな雰囲気の中で、多様な考えに触れ、自分の気持ちや考えを整理し、キャリアを具体的に考える機会を提供しライフプランを作るための土台づくりをめざす。その後の大学生活にける主体的な学びや活動へつなげることが期待される。

(3) プログラム案 キャリアモデルの生き方から将来を考える（150分）

テーマ	内容	担当
第1部：社会の構造を知る （50分）	アイスブレイク。自分の将来イメージを具体化するワークシート記入。グループシェア。人々の生き方の変化等をデータで学ぶ（※副読本『We learn』を教材として使用）	新井 財団スタッフ
第2部：キャリアモデルの体験談（100分）	働いている方3名のキャリアヒストリー、障壁を乗り越えた経験についてきく。3グループに分かれキャリアモデルと意見交換（キャリアモデル+学生。話し合った内容を全体でシェア。	働いているキャリアモデル3名、新井 財団スタッフ

※事前学習：「これからの私を話してみよう」ワークシート（自分の強み・夢中になって来たこと/10年後の私/将来への不安・もやもや/将来への期待・楽しみ/私を支える人・もの・言葉）を記入して持参する。

1) 聖心女子大学実施講座と静岡大学実施講座それぞれの特徴、強調点について

・聖心女子大学：キャリアセンター等から学生の傾向として指摘された「失敗することを怖がる」「自信がない」「意見が言いにくい」「親の影響が強い」を変えるきっかけを提供することを目標とした。具体的には、①女性の就業や性別役割分業の実態と課題をデータ等で紹介、②20代OG、30代後半育児・転職経験女性と多様な女性キャリアモデルを選定し、挫折を乗り越えた経験を話してもらう、③グループ毎にファシリテーターを配置し全ての学生が発言できるよう支援した。

・静岡大学：①共学の国立総合大学であり対象が女性に限定されない・理系学生がいる、②7割が静岡で就職、③文系理系でキャンパスが分かれており交流が少ない、という大学の特徴に留意し、プロ

グラム構成と学習支援方法は継続しつつ、①男性にとっての性別役割分業の問題やキャリアデザインの必要性を強調。②大学・地域・年齢等が学生と近いキャリアモデルを選定（20代文系学部OB、30代前半理系大学院OG、20代都内私大卒静岡勤務女性）。③学部学年性別など混合したグループを編成し、ファシリテーターを配置した。

2) キャリアモデルについて

◆聖心女子大学

- ・広告会社勤務（聖心女子大学卒、20代女性）
- ・IT会社勤務（共学大学卒、30代女性、育休取得経験あり）
- ・社会保険労務士（女子大学卒、30代女性、鉄道会社勤務経験あり、起業、夫婦ともに育児休取得経験あり）

◆静岡大学

- ・製薬会社勤務（静岡大学大学院農学研究科修了、30代女性、転職経験あり）
- ・IT企業勤務、NPO法人ディレクター（静岡大学人文学部卒、20代男性、転職経験あり、既婚）
- ・貿易振興独立法人勤務（都内共学大学法学部卒、静岡在住、20代女性、既婚）

(4) 実施と検証について

1) 実施について

◆聖心女子大学（2020年1月27日（月）13時半～16時）

- ・参加者 25名
- ・参加者の感想

「全く働き方や考え方の異なる三方に聞け、とても新しい考えを持つことができた」

「人生の中での仕事の意味を考えることができた」

「自分の人生について考え、悩み、本当に進みたい方向を探したいと思った」

「一度就職したとしてもそこに縛られる必要はないということ」

◆静岡大学（2020年2月7日（金）14時半～17時）

- ・参加者 13名
- ・参加者の感想

「仕事を嫌なこととせず、人生の延長として楽しむこと。就職活動では取り繕わずに自分に合った企業に採用してもらうことが大事。転職はマイナスではない」

「その時は失敗だったり絶望状態だったとしても、長い目で見て、自分の気持ち次第で失敗ではないと思えるかもしれないということが学びだった」

「現在は点でしかない。現時点では嫌なことでも未来はわからないということを学んだ」

◆全体として

・聖心女子大学では、卒業生のキャリアモデルを迎えて話をきく会を毎年開催しているが、グループごとに分かれて質疑応答できる機会を設けたのは今回が初めてで、学生は生き方や働くことについてより学ぶことができたと考えられる。静岡大学では、多くの学生にとって、卒業生や他大学のOGから「どう生きるか」という視点からじっくり話を聞くのは貴重な機会であったようで、参加者の多くが、講座終了後も教室に残ってキャリアモデルと話し、一緒に写真をとっていた。これらから、参加者の講座満足が高いことがわかる。

・聖心女子大学はひとつのグループが10名程度（キャリアモデル、ファシリテーター含む）、静岡大学は5名程度であったが、人数の少ない静岡大学の方が、学生からより発言があり、質疑が深まっていた。多くの学生に講座を受講してほしいが、グループに分かれての質疑を考えると、一グループ最大で10名程度と考えられ、講座全体として最大30名程度となる。

・静岡大学では半数が男子学生であったが、男性にとっての性別役割分業の問題について、ミニ講義や展示していたパネルを通して、男子学生、女子学生みなで共有し理解を深めた機会となった。ただ、今回は参加した学生の多くが「意識の高い学生」であったとも考えられ、一般的な男子学生にも自分ごととして考えてもらえるテーマ・データを検討する必要がある。

・静岡大学では1年生の参加が比較的多く、静岡大学、聖心女子大学ともに、初年次教育との連携も

考えていく必要がある。

◆その他

- ・参加人数：人生を考える講座は学生の参加が少ない傾向がある。教員が授業などで勧めることが重要である。来年度は講座の紹介動画を講座の勧誘に活用したい。
- ・キャリアモデル：人柄と内容のバランスが良く、それぞれの大学の講座の目的にあったキャリアモデルであった。想定される受講生や講座の目的にそったキャリアモデルに話をしてもらう重要性が再認識された。
- ・ミニ講義：おおむね熱心にきいていた。静岡大学では、今回は関心が高い学生が来ている可能性が高く、一般的な男子学生にも自分ごととして考えてもらえるテーマ・データを検討したい。
- ・ファシリテーター：会場の雰囲気はとても良く、参加者も満足した様子であった（手持ち無沙汰や不満そうな学生はいなかった）。日本女性学習財団のファシリテーションの専門性が高く、グループファシリテーションの技能がとても高いことが一つの要因である。大学でのアクティブラーニングが重視されるなか、プロを活用する利点が多くあることがわかった。
- ・グラフィックレコード、展示パネル：講座の内容を同期で記録するグラフィックレコードを聖心女子大学、静岡大学ともに依頼した。講座内容の振り返りに活用したが、とても良かった。記憶に残るビジュアルの力は大きい。展示パネルは、ミニ講義のなかでふれ、休憩時間や終了後に学生が見ることを促した。静岡大学では、講座終了後に多くの学生が展示パネルを見て話を深めていた。
- ・事前課題：参加者は事前に、たくさん記入して参加していた。グループワークの自己紹介でもすぐに話し始めていたので、効果があった。聖心女子大学ではイラストあり、静岡大学ではイラストなしのワークシートを使用した。イラストなしの方が先入観を与えず、かえって記入しやすいのかもしれない。
- ・その他：展示パネル、グラフィックレコード、修了証が参加者とキャリアモデル、運営側が話すきっかけになっていた。参加型学習の支援では、参加者の自己表現と相互行為を活性化させることが鍵になるので、それを実現する仕掛けとして効果があることがわかった。

(5) 開発するもの

a. キャリアデザインプログラム

b 指導者向け資料：プログラムの進め方、対象者別の展開例、ゲストトークの進め方

c 教材：統計データ資料、事前課題シート、ゲストトーク感想シート、ふり返りシート、事前・事後アンケート

d 普及ツール：学生目線の授業紹介動画（参加した学生が事後学習として作成する）

(6) 展開例

・本年度は、女子大学と共学大学において、受講生のニーズにあわせてキャリアモデルの特徴は変えたが、他はほぼ同じ内容で、2時間半の講座を1回実施した。展開例として、1時間半×2回の講座も来年度考えてみたい。



聖心女子大学



静岡大学

◇課外講座：ライフプランニング講座 B

講師：三輪英子 (株)キャリアクリエイション 代表取締役

(1) 講座目的

将来の仕事や職場の人間関係、仕事と育児の両立といった不安から、キャリアの展望が開きにくい学生に対し、不安を解消するだけでなく、固定的な考えにとらわれず前向きにキャリアを考える機会を提供する。働く場面がリアルにイメージできる実体験、社会人に求められるスキルに関する情報を得た上で、「今からできること」を自ら考え、大学生活での主体的なアクションにつなげる。参加者(2、3年生対象)には、今後の授業への入り口になるポイントを伝え、授業との連携を図り、関心が高まる就活は、テーマと関連させたアドバイスを加える。

(2) プログラムのポイント (想定される効果)

- ・通常授業と離れた場で、他者の多様な考えに触れながらキャリアを考える機会とする。
- ・「失敗することを怖がる」「自信がない」「意見が言いにくい」「世の中の動きを知らない、視野が狭い」という学生の実際の課題に対し、4ステップのテーマ別に、学生自身が具体的アクションを考える材料を提供する。
- ・講師によるレクチャーと学生同士のミニワークや事前課題のシェア等を組み合わせた双方向型形式で実施する。
- ・自ら学ぶ姿勢でのぞめるよう、事前にテーマについて課題に取り組み、事後には講座を聞いて得た学びと今後のアクションについてアウトプットするフローで推進する。
- ・講座を通じて、実際の情報を得ることで漠然とした不安が軽減される、あるいは、自らつくっている壁(制限)をこわすことでチャレンジ精神が芽生える、というメッセージを送り、今後の主体的行動を促進する。

(3) プログラム案

ステップ、テーマ	内容
【ステップ1】 もう失敗なんかこわくない	講座のねらい案内、自分にとって「失敗」とは何か？ 講師の失敗経験、失敗の捉え方、偉人の失敗から何を感じたか？ 失敗した場合の対応として経験学習サイクルを紹介、及び就活での活用方法を紹介。 事後ワークとして「経験学習サイクルシート」を配布
【ステップ2】 自分の力で、自信をアップ	自信が持てない理由とは？ 自信をアップするために必要な「一歩踏み出すストレッチ」、仕事上で自信を得た講師の経験紹介、2020年に達成したいチャレンジ目標と具体的なアクションを考える。企業がチャレンジする人材を求める理由とは？ レジリエンスとは？ 事後ワークとして「チャレンジ目標プランニングシート」を配布
【ステップ3】 意見が言えるワタシになる	ディスカッションの実施(※聖心：聖心大生の良いところ、悪いところを話し合う。※静大：YouTube映像「100年後のテクノロジー」を見て話し合う) 仕事で「意見をいう場面」とは？ 意見を伝える大切と伝える方法(Iメッセージ、Youメッセージ、言いにくいことを伝える方法)、コミュニケーションの基本、聴くから始める、就活で意見が求められる場面とは？ 授業で実践しよう
【ステップ4】 カベを壊して、可能性を広げよう	自身の偏見をチェックし、周囲と共有する(※チェック項目は女子大、共学に合わせて編集) アンコンシャスバイアスとは？ 講師の思い込みがなくなった経験、カベを取り除く方法、就活における思い込み(職種、仕事内容など)を解消する。女性が働きやすい会社とは？(聖心)、仕事会社選びのこだわりは？(静大) 人生を切り拓くには、「市場価値」の視点が大切

※毎回、グラフィックレコードを活用して講座内容をまとめ、次回振り返りを実施。

◆聖心女子大学実施講座と静岡大学実施講座それぞれの特徴、強調点について

・聖心女子大学：キャリアセンター等から学生の傾向として指摘された「失敗することを怖がる」「自信がない」「意見が言いにくい」「世の中の動きを知らない、視野が狭い」を変えるきっかけを提供することを目標とした。

・すぐに解決策を提示するのではなく、なぜ自信が持てないのか、なぜ意見が言えないのか、それぞれ自分ごととして理由を考えるとところからスタートした。特に学生に起こりがちな職種や仕事内容を選択する際の思い込みを取り上げるなど、学生に関心が高い就活に触れながら伝達した。

・静岡大学：学生の傾向については、聖心女子大学の学生と同様であることを受け、4つのテーマは変更せず、特に共学の国立総合大学であり対象が女性に限定されない、理系学生がいるという点に留意し、一部内容を改変した。具体的には、偏見や思い込みの内容と職業選択の部分を変え、男女対象に変更、ディスカッションテーマを、理系学生にも関心が高いテクノロジー関連への変更など。

・聖心女子大学では各回45分×4回をランチタイムに実施したが、静岡大学では、各回90分×2回を課外講座として実施した。

(4) 実施と検証について

1) 実施について

◆聖心女子大学

2019年12月18日(水) 12:30~13:15 参加者94名 ステップ1実施

2020年1月8日(水) 12:30~13:15 参加者97名 ステップ2実施

2020年1月10日(金) 12:30~13:15 参加者88名 ステップ3実施

2020年1月17日(金) 12:30~13:15 参加者91名 ステップ4実施

・参加者の感想：「グループディスカッションでお互いの意見を共有できたことが良かった。」「解決策として、具体的な方法を教えてもらったことが良かった。特に失敗のお話がとても為になった。」
「自分の目標を細かく決めることで、やるべき事が明確になり、良かった」など。

◆静岡大学

2020年2月27日(木) 13:30~15:10 参加者22名(男性12名、女性10名)

ステップ1・2実施

2020年2月28日(金) 13:30~15:10 参加者17名(男性10名、女性7名)

ステップ3・4実施

・参加者の感想：「今まで、失敗は怖いものだと思っていたが、そうではないということが分かった。今すぐ失敗を恐れない人にはなれないと思うが、「失敗したくない」と思った時、今回講座を思い出そうと思う」「VUCAの時代で生き抜く為には、多様性を受け入れ、自分が変わっていく必要がある」「知らず知らずの内に、思い込みがあるということ。それは、誰もがそうで思い込みがあると気が付くことが、変わる一歩であると気づけた」など。

◆聖心女子大学での実施について

・担当講師、教員、キャリアセンター職員で、聖心女子大生の弱みについてよく話し合い、内容を検討し、講座の4つの目標を設定したのはよかった。参加者の満足度は概ね高い。

・昼休み45分間×4回の実施であるが、事前課題との効果的な連動もあり、参加者は多くを学んでいる。ただ、昼休みなので、昼食を許可しており、食事中は集中力が保たれないのが残念である。

・授業との連携をはかったため、参加者数が100名近くとなった。事前学習を第三回目から提出するようにし、学習意欲が持続するように工夫した。提出した振り返りシートも次回、返却し、学生が自分の学びを蓄積できるようにした。参加者人数は多かったが、講座のなかの話し合いの時間は、周りの学生と話し合いを行うことで、うまく機能した。

・グループワークは一つのグループ3名程度で実施したが、ちょうどよい人数であった。

・自分を振り返り、人生を考える講座ではあるが、学生の関心が高い「就活」をキーワードとして、

講座内に少し盛り込み、学生の集中力の持続を促した。

・就学システムから講座の周知を行ったが、キャリアセンター関連の就活に関する多くの催しが同時期に開催されており、情報が埋もれてしまうので、ポスター掲示等ももっと行いたい。

・毎回、講座内容を同期でグラフィック化するグラフィックレコーダーを依頼した。「4 ステップで私の未来を切り拓く」というねらいに基づき、講座の振り返りと連続性の理解において大変役立った。

◆静岡大学での実施について

・聖心女子大生の弱みと設定した目標は、静岡大学の学生にも共通点があるとして、静岡大学でも同様の目標を設定したが、静岡大学の学生にとっても講座の満足度は高かった。今回設定した4つの目標は多くの学生にとって自分のキャリアや将来を考える上で資するものと考えられる。

・女子学生むけのテーマと考えられがちであるが、男子学生が積極的に参加している現状から、男子学生にも高いニーズがあることがわかった。

・講座時間を90分(40分×2、休憩5分、講座案内5分)で実施したが、アンケートによると、ディスカッションでの意見交換に対する評価が高く、講義とワークのバランスという点からも集中力高く参加ができたといえる。

・ミニワークは3名を一つのグループで行うよう教室をレイアウトしたが(可動式の椅子・机のある教室で実施)、ちょうどよい人数と時間配分であった。

・2日間にわたったスケジュールは、浜松キャンパスの学生にとっては良かったが、静岡キャンパスから参加したい学生にとっては浜松キャンパスまでは距離があり、参加のハードルが上がる。講座の実施形式は今後の課題である。

・2日目の講座開始前に、学生がグラフィックレコードを使って、2日目から参加する学生に対し前日の講義内容を説明していた。グラフィックレコードの活用方法の一つと考えられる。

・講義やテストが終わった時期だった為、集客が難しかったが、当日参加の学生もおり、問題意識の高い、向学心のあるような学生が参加したと考えられる。

・グループ発表の際、男女混合グループであっても男子学生からの発表が多い傾向があり、講師が女子学生をグループ発表者として指名する工夫も行った。

・広報チラシは、聖心女子大学で使用したチラシのデザインが女性をイメージさせるイラストや色使いとの指摘をうけ、男性にも参加を促すことができるような仕様にアレンジをした。

・静岡大学での実施は、ステップ1・2とステップ3・4の間に5分間の休憩をとった。また、講座終了後の事後アンケートと振り返りシートへの記入の時間を5分とったので(聖心女子大学での実施の際、やや時間が足りなかった)聖心女子大学の実施のときより講座時間を10分間ながく設定している。複数回で実施した講座を統合して実施する際には、休憩の入れ方に留意する必要がある。

(5) 開発するもの

a.仕事と生き方を考える課外講座プログラム

b.指導者向け資料：講義内容、講座の進め方のでびき、対象者・実施回数別展開例

c.教材：事前課題シート、ワークシート、ふり返りシート、事前・事後アンケート

d.普及ツール：学生目線の授業紹介動画

(6) 展開例

・本年度は、45分×4回講座と90分×2回講座の2つのパターンで実施した。他の展開例も引き続き検討する。



聖心女子大学



静岡大学

5. 成果物について

(1) 科目、講座ごとの成果物

①職業社会学1

- a) 指導者向け資料：プログラム案、キャリアモデルへの質問案、事後アンケート
- b) 教材：授業のふり返しシート

②キャリアプランニング講座 A

- a) 指導者向け資料：プログラム案、ミニ講義内容案、ゲストトークの進め方、対象者別展開例
- b) 教材：統計データ資料、事前課題ワークシート、ゲストトーク感想シート、事後アンケート
- c) 普及ツール：学生目線の紹介動画
- d) 修了証

③キャリアプランニング講座 B

- a) 指導者向け資料：プログラム案、講義内容案、対象者・実施回数別展開例
- b) 教材：事前課題ワークシート、ワークシート、ふり返しシート、事前・事後アンケート
- c) 普及ツール：学生目線の紹介動画
- d) 修了証

(2) HP の構築について

本事業の成果物を大学公式 HP に掲載して、広く講座について周知するとともに、キャリア教育関係者には指導者向け資料や教材等を利用してもらい、本事業の成果を様々なシーンで実施・展開できるようにした。

URL : <https://www.u-sacred-heart.ac.jp/student-support/career/life-planning/>

(3) 動画作成

動画世代に訴求効果のある普及ツールとして、講座の紹介動画を学生が作成しHPにて公開した。学生が講座の内容を撮影・編集することにより、プログラムへの学生参加を図った。

(4) グラフィックレコード

講座の流れ、講師・参加者の発言等を文字とイラストで記録し、掲示した。講座で、①まとめやふり返りの際に使用、②前回のふり返し資料として印刷配布した。

さらに、後日、動画や写真撮影しHPに公開など広報・普及ツールとして活用した。

6. 動画作成について

(1) 目的は、動画世代に訴求効果のある普及ツールとして、講座の紹介動画を作成しHPにて公開することである。学生が講座内容を撮影・編集し、紹介動画を作成することにより、プログラムへの学生参加を図った。

(2) 対象講座

- ① 講座 B (聖心) 4 回分を撮影・編集し、約 2 分 1 本の動画を作成した。
- ② 講座 A (聖心) 1 回分を撮影・編集し、約 2 分 1 本の動画を作成した。
- ③ 講座 B (静岡) 1 回分を編集し、約 2 分 1 本の動画を作成した。 ※撮影したものを渡した。
- ④ 講座 A (静岡) 1 回分を編集し、約 2 分 1 本の動画を作成した。 ※撮影したものを渡した。

(3) 動画撮影・編集時の注意点

- ・各講座冒頭に、本事業の説明および動画撮影と大学公式 HP に掲載して広く紹介することについて、口頭で了解を得た。
- ・動画撮影編集担当学生には、できるだけ個人の顔が大きく写らないように配慮するよう依頼した。
- ・動画撮影編集担当学生には、実のある自身の経験としてもらうため、動画納品時に「動画撮影振り返りシート」に記入の上、提出してもらった。
- ・実行委員やコーディネーター補佐、キャリアセンタースタッフが動画撮影編集担当学生に、撮影編集に関する連絡、相談を細かく実施した。これにより、学生は動画作成の目的を理解し、本事業の趣旨、講座のポイントをおさえて動画を作成することができた。

(4) 成果について

- ・実行委員の助言をもとに、学生が動画を編集したことによって、講座のポイントをおさえつつ、参加した学生目線ならではの内容となり、学生にとっての講座の魅力が表現された内容となった。これを普及ツールとして活用することによって、来年度の集客につながるができると考えられる。
- ・動画編集を行う学生も、編集作業を通じて「講座のポイントを押さえてわかりやすく伝える」ことに取り組み、与えられたものを消費する側ではなく、問題を見出し提案していくという作り手側の視点を養うことができた。「動画作成に関する振り返りシート」も、学生のこのような学びを深めることができたと考えられる。

7. グラフィックレコードについて

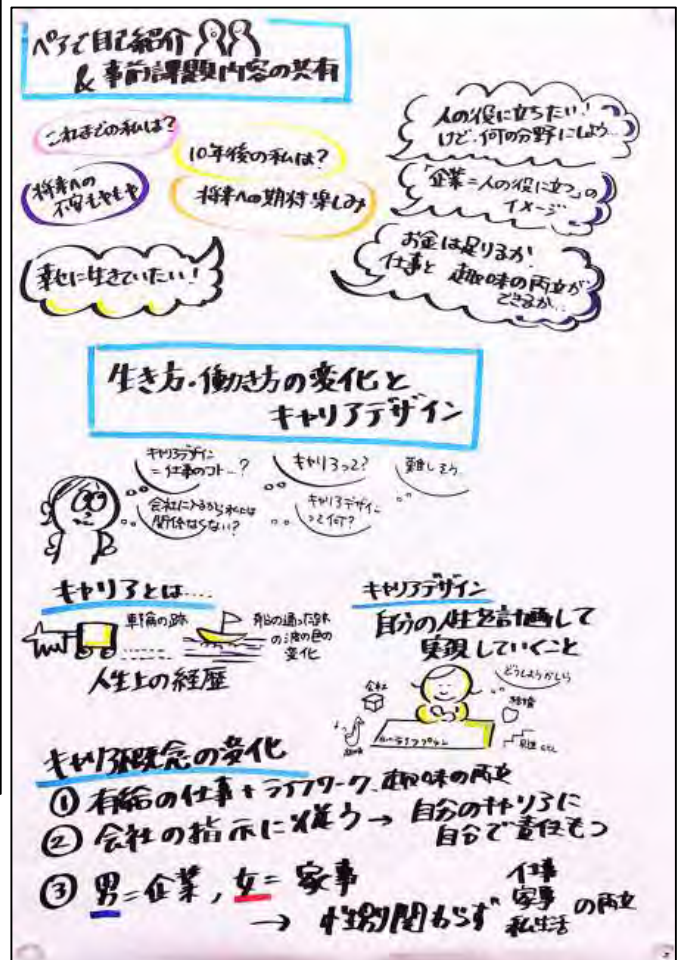
(1) 活用方法

- ・ 講座の流れ、講師・参加者の発言等を文字とイラストで記録し、掲示した。
 - ・ 講座で、①まとめやふり返りの際で使用、②前回のふり返り資料として印刷配布した。
 - ・ 後日、動画や写真撮影しHPに公開など広報・普及ツールとして活用した。
- ⇒グラフィックレコードを活用することにより、①講座の振り返り、まとめがわかりやすくなった、②連続講座の場合、講座と講座の連続性がよく理解できるようになった、③わかりやすく、親しみやすい広報普及ツールとして活用することができた。

(2) 実施講座とグラフィックレコーダー依頼回数

- ① 講座 B (聖心女子大学) 4回
- ② 講座 A (聖心女子大学) 1回
- ③ 講座 B (静岡大学) 2回
- ④ 講座 A (静岡大学) 1回

(3) グラフィックレコードの例



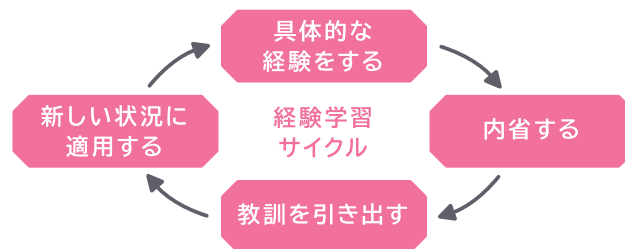
付録

- ・「ワークシート 経験学習サイクル」
- ・「ワークシート チャレンジ目標プランニング」
- ・「失敗なんて怖くない 事前課題」
- ・「自分の力で自信 UP 事前課題」
- ・「意見が言える自分になる 事前課題」
- ・「カベを壊して可能性を広げよう 事前課題」
- ・「事前課題 これからの私を話してみよう ワークシート」
- ・「キャリアモデルトーク感想シート」
- ・「振り返りシート」
- ・事前事後アンケート
- ・修了証

ワークシート 経験学習サイクル

具体的な経験内容

どのように捉えたか



どのように活用したか

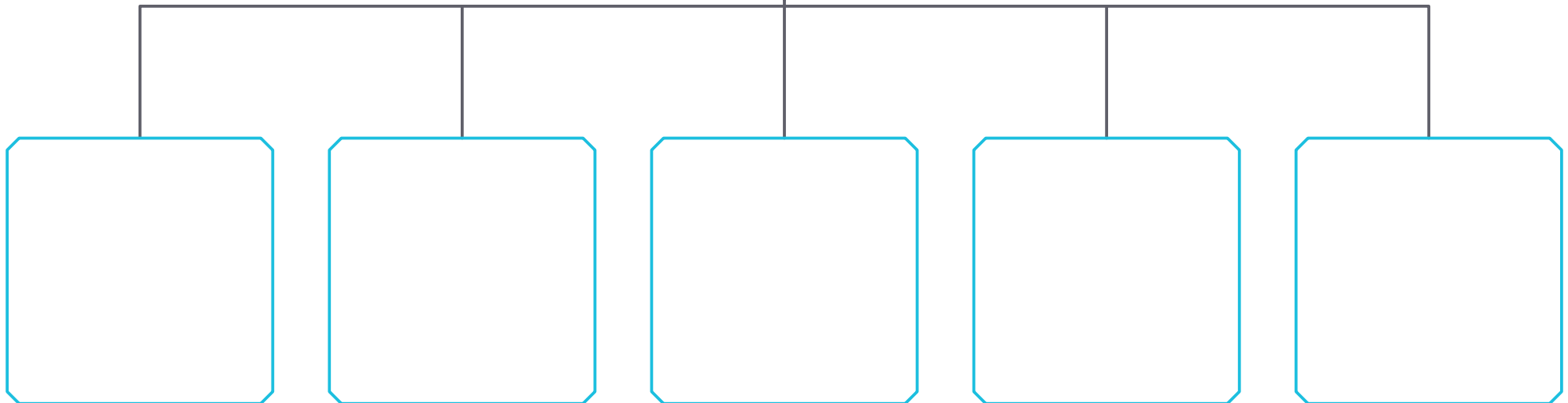
得られた教訓

ワークシート チャレンジ目標プランニング

チャレンジ目標



・いつまでに ・何を
・どうしたい



アクション
 Finish!

アクション
 Finish!

アクション
 Finish!

アクション
 Finish!

アクション
 Finish!

失敗なんて恐くない 事前課題

1. あなたにとって失敗とは何ですか、どんな失敗が怖いと思いますか？ 考えてみましょう。

2. 偉人の失敗エピソードを調べてみましょう。そのエピソードからどんなことを感じましたか？

自分の力で自信up 事前課題

1. 年に達成したいチャレンジ目標を考えてきてください。(いつまでに、何を、どうしたい)

2. 目標達成するために具体的アクションを考えてみましょう。

-
-
-

意見が言える自分になる 事前課題

1. 大生の良いところと悪いところを自由に書いてみてください。理由も考えてみましょう。

良いところは？

悪いところは？

2. 授業(ゼミなど)やサークル、バイト先などで意見が言えていますか。もし言えていないとしたら、言えていない理由はなんでしょうか、考えてみましょう。

-
-
-

カベを壊して可能性を広げよう 事前課題

1. あてはまるものに チェックしてください。

- 育児や家事の主導権は、女性が持つべき
- 家事代行サービスを利用するのは手抜きだ
- 子どもができたなら管理職になるのは難しい
- 仕事と育児を両立するには一般職が良い
- 管理職は女性よりも男性の方が向いている
- 営業職は外回りで忙しく、女性にはハードな仕事だ
- 事務職に就いたら、無理なく長く働くことができる
- 総合職は責任が重く、長時間労働になりがちだ

2. 女性が働きやすい会社とはどんな会社だと思いますか？ 思いつくものを書いてみましょう。

これまでの私は？〈自分の強み、夢中になってきたこと、
したいと思っていたことなど〉

10年後の私は？〈仕事は？ プライベートは？ 大事にしたいことは？〉

将来への不安・もやもや

将来への期待・楽しみ



私を支えるもの(人・場所・もの・言葉・・・)

<p>これまでの私は？ ＜自分の強み、夢中になってきたこと、したいと思っていたことなど＞</p>	<p>10年後の私は？ ＜仕事は？ プライベートは？ 大事にしたいことは？＞</p>
<p>将来への不安・もやもや</p>	<p>将来への期待・楽しみ</p>

<p>私を支える人・場所・もの・言葉などは？</p>

キャリアモデルトーク感想シート キャリアモデルの体験談を聞くときに使用してください。

	印象に残った言葉、感想	質問
さん		
さん		
さん		
トーク全体について		

【ふり返しシート】

氏名： _____

今日の講座を振り返って、あなたが感じたこと・考えたことを自由に書いてください。



わたしが気づいたのは…



わたしがうれしかったのは…



わたしがこれから実行しようと思ったのは…



その他書いておきたいことは…

「ライフプランニング講座 B」事前アンケート ※該当する番号ひとつに○をつけてください

- 学部 ()
- 学年 ()
- 性別 ①女性 ②男性 ③その他

Q 1) 受講動機を教えてください。最も強いものを一つ選んでください。

- ①自分の将来を考えたい ②就職活動の役に立つ ③社会人の女性の話が聞きたい
- ④人に勧められた ⑤その他

Q 2) 大学卒業後の就業希望を教えてください。就業には、企業等に就職するほか自営や起業も含まれます。

- ①必ずしたい ②できればしたい ③できればしたくない ④しない ⑤その他

Q 3) 将来就きたい、または就く職業や仕事が決まっていますか。

- ①決まっている ②ある程度決まっている ③決まっていない ④その他

Q 4) 将来、結婚や人生のパートナーを得たいですか。結婚には事実婚や同性パートナーシップなど法律婚以外の形態も含まれます。

- ①必ずしたい ②できればしたい ③できればしたくない ④しない ⑤その他

Q 5) 将来、子どもを持ちたいですか。

- ①必ず持ちたい ②できれば持ちたい ③できれば持ちたくない ④持たない ⑤その他

Q 6) 将来、結婚や子育てをした場合、どのような働き方をしたいと思いますか。

またパートナーを得た場合、パートナーにはどのような働き方をしてもらいたいと思っていますか？

- ①就業を続ける。育児休業や短時間勤務制度などを活用する
- ②就業を続ける。育児休業や短時間勤務制度などは活用しない（又はわからない）
- ③結婚を機に退職し、再就業はしない
- ④結婚を期に退職し、適当な時期にフルタイムで再就業する
- ⑤結婚を期に退職し、適当な時期にパートタイムで再就業する
- ⑥子どもの出生を機に退職し、再就業はしない
- ⑦子どもの出生を期に退職し、適当な時期にフルタイムで再就業する
- ⑧子どもの出生を期に退職し、適当な時期にパートタイムで再就業する
- ⑨その他

自分は () パートナーは ()

ご協力ありがとうございます

「ライフプランニング講座 B」 事後アンケート ※あてはまるもの一つに○をつけてください。

- 学部 ()
- 学年 ()
- 性別 ①女性 ②男性 ③その他

Q 1) 受講動機を教えてください。最も強いものを一つ選んでください。

- ①自分の将来を考えたい ②就職活動の役に立つ ③社会人の女性の話が聞きたい
- ④人に勧められた ⑤その他

Q 2) 今回の講座・授業は「将来の働き方」を考えるのに役立ちましたか？

大変役立った / まあまあ役立った / あまり役立たない / 全く役立たない

Q 3) 今回の講座・授業は「将来の生き方」を考えるのに役立ちましたか？

大変役立った / まあまあ役立った / あまり役立たない / 全く役立たない

Q 4) 授業に参加する以前と今を比較して、意識や考えに変化がありましたか？

①将来を考えることに前向きになった	大変	まあまあ	あまり	全く
②将来に対する不安や焦りが減った	大変	まあまあ	あまり	全く
③自分に自信が持てるようになった	大変	まあまあ	あまり	全く
④失敗が怖くなくなった	大変	まあまあ	あまり	全く
⑤目標が明確になった	大変	まあまあ	あまり	全く
⑥意見が言えるようになった	大変	まあまあ	あまり	全く
⑦思い込みを持たないようになった	大変	まあまあ	あまり	全く
⑧就活に対する不安が減った	大変	まあまあ	あまり	全く
⑨女性の生き方や社会構造の変化が分かった	大変	まあまあ	あまり	全く
⑩ライフプランニングのための情報や知識が得られた	大変	まあまあ	あまり	全く
⑪将来を考える際に目標となる人が見つかった	大変	まあまあ	あまり	全く
⑫自身のライフプランニング上の課題が明確になった	大変	まあまあ	あまり	全く
⑬自分の行きたい方向が分かった	大変	まあまあ	あまり	全く

Q 5) 講座・授業で行ったワークや講義について具体的に何が良かったですか？

また改善すべき点があったら教えてください。

[]

裏へ続きます

Q 6) 話し合いやワークに積極的に参加できましたか？

はい / いいえ

└→理由を教えてください ()

Q 7) 講座や授業内容について、理解できなかったこと、疑問や違和感などがあつたら教えてください。

[]

Q 8) 大学の授業として、今回のようなライフプランニングの支援が必要だと思いますか？

大変必要 / まあまあ必要 / あまり必要ではない / 全く必要ない

そう考える理由を教えてください ()

Q 9) 講座や授業を通して、あなたが学んだこと・得たこと、今後の生活で大切にしたい・生かしたいことがあれば教えてください。

[]

Q10) 自身のライフプランやキャリアを考える上で、今後、得たい支援はありますか？

また、アンケートに答えてみての意見や感想、提案などがあれば自由に書いてください。

[]

ご協力ありがとうございました

修了証

殿

あなたは 聖心女子大学『人生を切り拓くライフプランニング教育』

(文部科学省「次世代のライフプランニング教育推進事業」)

初級「社会人の話を聴いて私の未来を切り拓く」を修了したことをここに証明します

令和 年 月 日

修了証

殿

あなたは聖心女子大学『人生を切り拓くライフプランニング教育』

(文部科学省「次世代のライフプランニング教育推進事業」)

中級『4ステップで私の未来を切り拓く』を修了したことをここに証明します

令和 年 月 日

文部科学省「次世代のライフプランニング教育推進事業」
(ライフプランニング教育プログラム開発) 委託事業
「人生を切り拓くライフプランニング教育」報告書

聖心女子大学 令和2年3月

〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-3-1